

# 基本構想

# 1 人口

昭和30年（1955年）の市制施行以来、企業誘致や住宅団地の誘導、更には高速道路網の整備が進み、人口は昭和35年（1960年）頃から一貫して高い増加を示してきました。

昭和55年（1980年）から入居が始まった桃花台ニュータウンの人口は、平成10年（1998年）には2万6千人を超え、市全体でも14万人を超えました。

今後、ニュータウンの入居はおおむね平成17年（2005年）に完了するため、人口の増加が鈍化する要因となります。

一方、上飯田連絡線及び名濃道路の開通などによる名古屋都心部とのアクセス向上に加え、名鉄小牧線沿線の各地区で施行中の区画整理事業が進むことにより、人口が増加する要因もあります。

これらのことから、平成21年（2009年）の人口規模は、おおむね16万人と推定します。

# 2 世帯

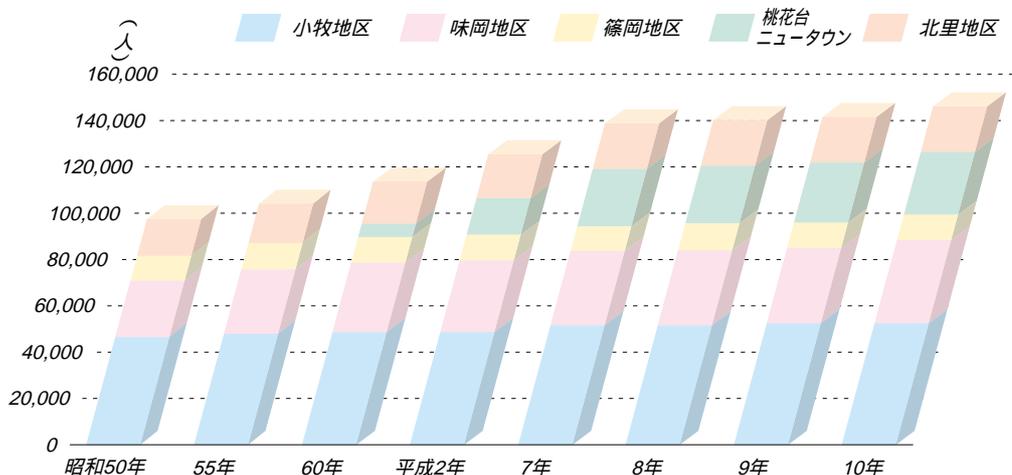
世帯数は、人口の動向と同様に昭和35年（1960年）頃から増加していますが、1世帯当たりの人員は、減少傾向が大きくなっています。

特に桃花台ニュータウンの1世帯当たりの人員については、ニュータウン以外の地区に比べて高い値で推移してきているものの、昭和60年（1985年）以降は、他地区の傾向と同じく低下し続けています。

今後もこの世帯人員の減少傾向は続くと予想され、平成21年（2009年）には、おおむね2.63人になるものと推定されます。

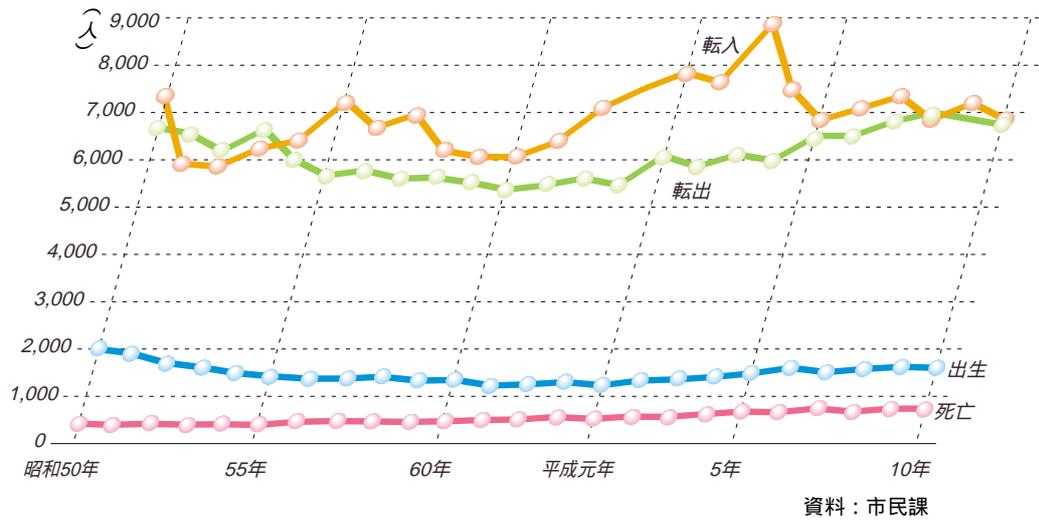
このことから、世帯数については、おおむね60,900世帯と推定します。

地区別人口の推移

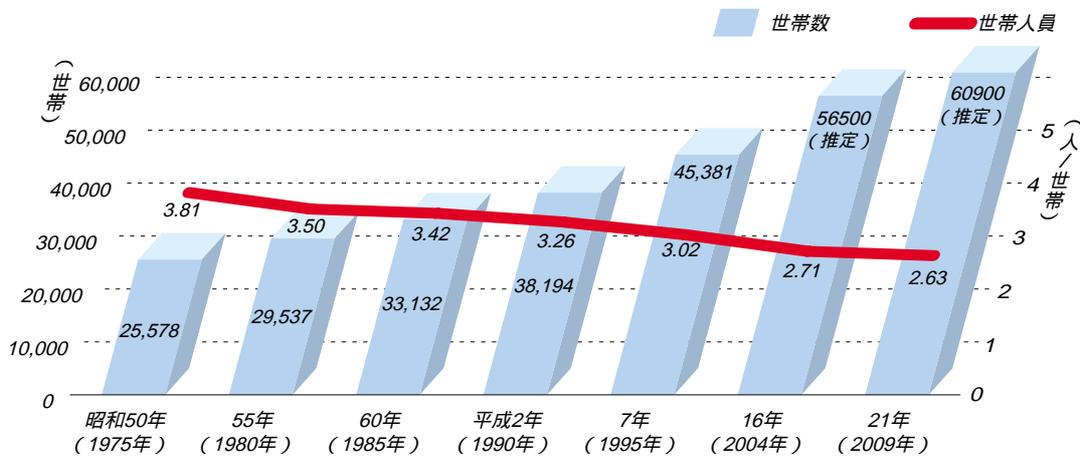


資料：市民課

## 人口異動



## 世帯数・1世帯あたりの世帯人員の推移と推定



資料：総務庁統計局「国勢調査報告」  
平成16年、21年は小牧市推定

# 3 年齢別の人口

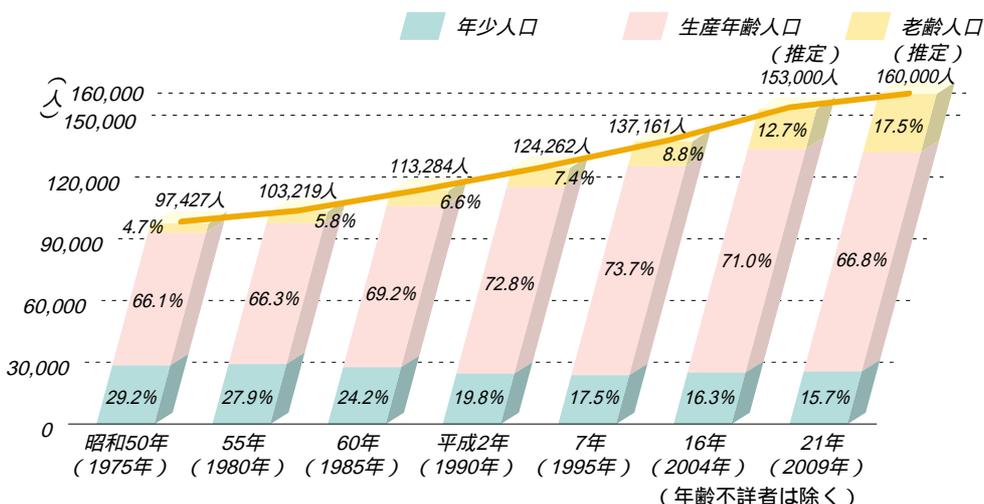
65歳以上の高齢者のいる世帯の比率は、周辺市町の中では最も低くなっています。しかし、昭和50年（1975年）から平成7年（1995年）の20年間に、高齢単身世帯については、131世帯から881世帯の6.7倍、高齢夫婦世帯は297世帯から1,664世帯の5.6倍に増加しています。

桃花台ニュータウンの年齢構成は、他の地区と比較すると、20歳未満の若年層の割合が高いなど、世代の偏りがみられます。子が成人し別の世帯を持つなど、核家族化の進行の動向によっては、今後20年の間に急速な高齢化を迎えることも考えられます。

今後、少子化の進行、桃花台ニュータウンの入居完了という高齢化を促す要因とともに、名古屋都心との交通アクセスの向上による新たな人口流入など、高齢化を抑える要因もあるため、市全体では、現在の傾向を引き継いで推移するものと考えられます。

このことから、平成21年（2009年）における人口構成は、年少人口15.7パーセント、生産年齢人口66.8パーセント、高齢人口（いわゆる高齢化率）17.5パーセントと推定します。（このうち、前期高齢者は11.2パーセント、後期高齢者は6.3パーセントと推定します。）

年齢階層別人口推移と推定



資料：総務庁統計局「国勢調査報告」  
平成16年、21年は小牧市推定

## 4 就業人口

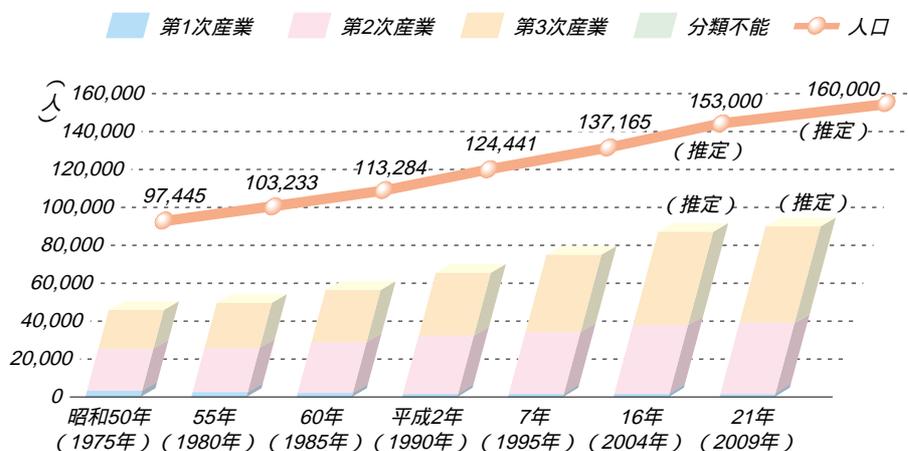
平成7年（1995年）の国勢調査によると、市民の就業人口は75,180人で、就業人口率は54.8パーセントです。昭和60年（1985年）と比較すると、人数で18,727人増加し、就業率は5ポイント増加しています。

産業構造別では、第1次産業1.8パーセント（1,390人）、第2次産業43.5パーセント（32,722人）、第3次産業54.5パーセント（40,969人）で、昭和60年（1985年）と比較すると、第1次産業は半減し、第3次産業は就業人口が大きく伸びています。

また性別でみると、男性の第3次産業への就業比率が第2次産業の比率を初めて上回り、女性においても、第2次産業の比率がおおむね一定で推移しているのに対して、第3次産業の比率が急増しています。

今後も、こうした傾向が続くことが予想されることから、平成21年（2009年）における市民の就業人口は90,000人（第1次産業1.1パーセント（1,000人）、第2次産業42.2パーセント（38,000人）、第3次産業56.7パーセント（51,000人）、就業人口比率は56.3%と推定します。

### 産業別就業人口と推定



資料：総務庁統計局「国勢調査報告」  
平成16年、21年は小牧市推定